

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。**外部評価の結果**

事業所名 グループホームそよかぜ

日付 平成16年10月18日
特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会
LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験11年

評価調査員 在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
「利用者がわがままを言って職員を娘と思い、職員は利用者を親と思い、遠慮のない会話が出来るようにしたい」「利用者が遠慮などしないで自分のしたい事をして欲しい」こんなやさしい家庭的な生活をして貰いたいと職員全員努力している。
隣のグループホーム「わかば」とは廊下の途中に二重の扉で仕切られた同じ屋根の下の別所帯である。医療の事業主と統括的管理者の影響を受けていて、基本的には同じ性格のグループホームではあるが、このグループホームは「やさしさと気楽さ」を感じる。
「家では気を使うけど、ここでは何の気も使わなくてもいいんよ。え」とこじやー」と皆んな自分の好きな暮らしをしている。キッチンとリビングルームが1つになった広い空間、間仕切りも何もない。けれど暖かさの感じが漂う。季節が変わっていく度に、利用者職員で季節の貼り絵をつくる。今のハイライトは「ぶどうとコスモス」。コスモスの茎は色紙のコヨリで実感がある。これは利用者の持っている特技。今の職員には到底かなわない。利用者の持っている能力を最大限生かして皆んなで生活を盛り上げていっている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
自分のグループホームから外の空気に接する機会がないのが残念です。前の駐車場の上にベランダを作り、3つのグループホームが利用して日光欲をしたり、お茶の時間を過ごす。季節によっては月見をしたりして、3つのグループホームの利用者が交流したりするのも有意義かと思う。少し大胆な提案ですが、
現在は自分で食事が出来る人ばかりですが、すべての人に老化が進んでいくので、今から毎日徐々に老化を防ぐ身体的なりハビリ、嚥下を防ぐ口腔ケアなど進めていっては如何でしょうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「料理の手伝い」「洗濯物干しと取り込み」「掃除をする」「お盆とおしぼり台の掃除」など女性陣が自分の仕事を。「今日の味どんな?」「この味よいねえ」「おいしく出来ている」など調理の味見から食卓での評判が、会話の中にはずんでいる。 男性はやはり新聞を見てのんびりと亭主閑白?。そして朝風呂も男性の特権。カラオケは皆んなで得意な曲を歌い、踊る人、机をたたいてリズムをとる人等賑やかで楽しそう。 トイレは「あいてます」「入っています」という札があり、使用中がすぐ分る。そこにそっと声かけ誘導している。一人ひとりの服装、髪も各人の好みになり、きちっとしている。		

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 院長の「皆んな普通の人として大切にケアしていこう」という考えと、統括的管理者の目指している目標についていこうとする職員の努力があって「自分の出来ることは出来るだけ一人ですよう見守りをしていく」「その人らしく生活出来るよう支援する」という心掛けが浸透して、「歩ける人はいつまでも自分で歩く」「車椅子の人は自分でホイールを動かす」というように利用者の能力を維持、又は向上していくようケアを続けている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 広い空間の中、食事の準備時は食卓に集まり、食事はテーブルが2ヶ所に別れていて、楽しく食事の団楽をする。食後やおやつ時の合間には、カラオケをする大きなソファへ。何か作るときはテーブルへと、その時その時で空間をうまく利用している。 広いリビングルームに面して居室があるので、職員の見透しもよく、声かけ、誘導、等のケアもやり易い。 お風呂は実に広い。車椅子でもゆうゆう。プランターに花を植え風呂場に添えている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 医療法人のグループホーム全体が、統括的管理者の下でケアの向上のため努力しているので、すべての面での向上心の意欲が感じられる。 家族との交流を大切にしており、家族からの意見、希望、相談、提案など積極的にだして貰えるよう書式を作り、キャッチボールを重ねている。交通量の多い道路に面しているので、いつでも自由に出外することは難しいこともあるので、地域の人の協力を得て、今以上に出来るだけ出外する機会を多くしたり、色々な地域の人にグループホームに出入りして貰えるシステムをつくって是非交流を深めて頂きたい。 "たより"など他のグループホームと共同で手作りして、家族はじめ地域の人々ともグループホームや痴呆老人を理解して貰えるよう努力して貰いたい。		